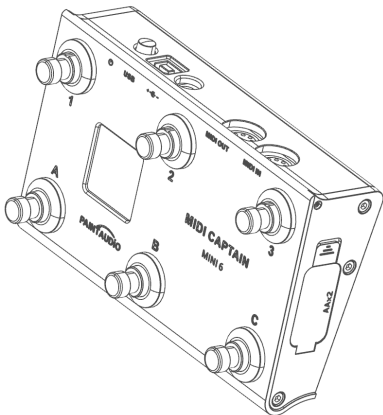
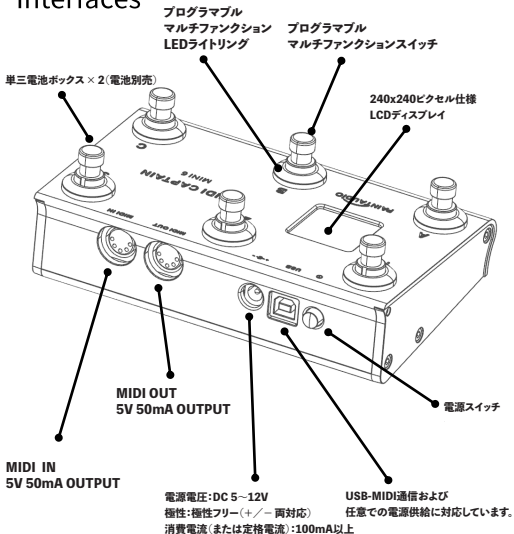


MIDI Captain **MINI 6**

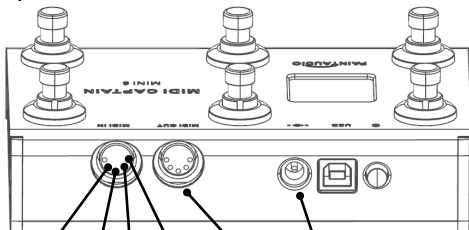
With Super Mode MIDI Switches Configuration



Interfaces



Special Reminder



PIN 5: MIDI信号
(PIN5 Normal MIDI Signal)

MIDI INと同じ仕様。

PIN 2: グランド / GND
(PIN2 GND Ground of 5V)

PIN 4: MIDI信号
(PIN4 Normal MIDI Signal)

PIN 4: MIDI信号
(PIN4 Normal MIDI Signal)



電源の極性(+/-)を問わず使用できます。
また、ACアダプターとUSB-Cを同時に接続
して使用することも可能です。

MIDI CAPTAIN NANO4のMIDI IN端子は1番ピン(PIN 1)から5V給電出力を行う仕様のため、他機器との電源衝突による故障を防ぐには信号線(PIN 4/5)のみを結線した付属のMIDIケーブルを使用するのが最も安全です。(※Quad CortexやHX Stomp BOSSなど一般的な現行エフェクターであれば、市販のMIDIケーブルを繋いでも故障する心配はほぼありません)

MIDI Captain MINI 6

PAINTAUDIO

Key Names for Configuration

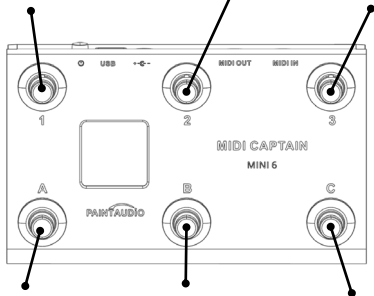
key0

Windows/macとUSB接続し、スイッチ「1」を押したまま電源を入れるとUSBセットアップモードに切り替わります。

key1

key2

長押しするとページが進みます。(Page+)



key3

key4

key5

長押しするとページが戻ります。(Page-)

この図は、USBモードでのキー設定と、実際のフットスイッチとの対応関係を示しています。

Firmware & Function Brief

本機には、Super Modeと呼ばれる最新のMIDI Captainシリーズのファームウェアプログラムが搭載されています。電源を接続するとき、または本機の電源を入れるときにkey0フットスイッチ（MIDI Captain ONEの場合、フットスイッチは1つしかないためkey0）を押し続けることで、USBモードに入り、すべてのフットスイッチの機能をカスタマイズすることができます。

Super Modeは、press、short release、long press、long releaseの4つのキー状態をサポートしており、それぞれ異なるコマンドセットを実行します。コマンドは、1つのコマンドでも複数のコマンドでも構いません。各動作に設定できるコマンド数に制限はなく、これは以前のMIDI CaptainファームウェアのNormal modeやGeek modeでは実現できなかったことです。

また、1つのフットスイッチをループ内で複数回トリガーできる機能も作成しました。「keytimes」パラメータで複数回を設定することにより、フットスイッチを複数回押したときに異なる動作をさせることができます。たとえば、keytimes = 2の場合、フットスイッチに一般的なCCトグルコマンドを実行させたり、2つのPCコマンドを切り替えたりすることができます。keytimes = 5の場合、順番にトリガーされる5つの異なるコマンドセットのシーケンスを作成できます。最大値はkeytimes 9です。

フットスイッチの4つのキー状態と複数回のトリガーイベントを組み合わせることで設定することにより、MIDIフットコントローラーでこれまでにない豊富な機能の組み合わせを実現できます。

Configuration Language Brief

keytimes = [x]

ここの「x」はキーが複数回押された時の異なる信号動作の数を表します。

ledmode = [select]

normal または tap に設定することが可能。この設定は、フットスイッチのLED表示を指定するために使用します。selectモードでは、現在選択されているスイッチに対応するLEDのみが常時点灯します。Normalは設定された色を通常通り表示することを意味し、tapは点滅動作を意味します。

ledcolorX = [0xff0000][0x00ff00][0x0000ff]

ここでの「X」は、キーが押された回数を表し、各値はX回目にキーが押されたときのLEDライトの色を表します。リング上の各LEDセットは個別に設定できます。

short_dwX, short_upX, longX, long_upX

X回目の短押し、X回目の短押し後に離す、長押し、長押し後に離す、のそれぞれ4つの動作状態に対応します。

short_up1 = [1][PC][3][-][16][CC][127][0][4][NT][60][127]

イコール記号の後のコマンドは、コマンドのセットを表します。4つのパラメータごとに1つのコマンドを構成し、複数のコマンドを連続して記述できます。最初のパラメータはMIDIチャンネル値、2番目のパラメータはMIDIコマンドタイプ（PC、CC、またはNT - note）、3番目と4番目のパラメータは対応するコマンドIDと値です。

より詳しい設定手順は次のページから解説致します。

本製品のMIDI設定について

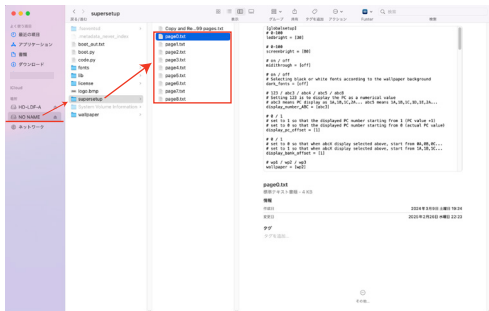
本製品は、プリセット(初期設定)をあらかじめ保持していないフルカスタム専用のMIDIスイッチャーです。お使いのマルチエフェクターやギタープロセッサの仕様に合わせてMIDI設定を行い、本体に書き込んでからご使用ください。

【設定手順】

1. 付属のUSB Type-B to Type-Aケーブルでパソコン(Windows / Mac)と接続し、スイッチ「1」を押したまま電源を入れると本体が「セットアップモード」で起動します。
2. パソコンの画面上に本製品のドライブアイコン(NO NAME)が表示されます。
3. ドライブ内の「superssetup」フォルダを開き、編集したいテキストデータ(page0.txt)～(page8.txt)を編集して上書き保存します。

テキストファイルを編集する前に必ずコピーしてバックアップを取ってください。編集がわからなくなった、動作しなくなった等、トラブルが起きた場合は、バックアップデータを上書きすると購入時の状態に戻ります。

4. 上書き保存して設定が完了したらマウスカーソルをアイコンに合わせて右クリック→「NO NAMEを取り出す」をクリックしてからUSBケーブルを外してください。



テキストファイル内の page_name = [name] の [name] 部分を
好みのページ名に書き換えて保存することが可能。

バッテリー残量

液晶の点(最大9個):

スイッチに設定された切り替え
回数(keytimes)を表示。

機能: 踏むたびに最大9種類の
信号を順番に切り替えて送信可能。

PC(プログラムチェンジ)No.が表示



スイッチ「2」を長押しするとページ
数が進み、スイッチ「B」を長押しす
るとページ数が戻ります。

PC(プログラムチェンジ)No.のタイ
トルが表示。その他、CC(コントロー
ルチェンジ)Value No.(バリューNo.)
NT No.(ノートNo.)など表示可能。

下記の設定コードはメーカーによる設定用のサンプルコード(見本)が購入時に記載されています。このコードの書
き方(法則)を参考に、編集やコピー＆ペーストを行います。ここではサンプルコードの意味を簡潔に説明します。

```
[key0]
keytimes = [1]
ledmode = [select]
ledcolor1 = [0xffff00][0xffff00][0xffff00]
short_dw1 = [1][CC][81][1]
```

スイッチ「1」を短押しするとチャンネル1, CC#81,
Value No.1の信号を送信します。

```
[key2]
keytimes = [3]
ledcolor1 = [0xff00ff][0x000000][0x000000]
ledcolor2 = [0x000000][0xff00ff][0x000000]
ledcolor3 = [0x000000][0x000000][0xff00ff]
short_up1 = [1][PC][0][-]
short_up2 = [1][PC][2][-]
short_up3 = [1][PC][4][-]
```

スイッチ「3」を短押しするとチャンネル1 / PC #0 /
→チャンネル1 / PC #2 / →チャンネル1 / PC #4 /
の順番で繰り返し送信します。

```
[key1]
keytimes = [1]
ledmode = [select]
ledcolor1 = [0x00ffff][0x00ffff][0x00ffff]
short_dw1 = [1][CC][81][2]
```

スイッチ「2」を短押しするとチャンネル1, CC#81,
Value No.2の信号を送信します。

```
[key5]
keytimes = [1]
ledcolor1 = [0x0000ff][0x0000ff][0x0000ff]
short_dw1 = [-][HID][-][Right]
```

スイッチ「C」を押すと「Right」キーの信号を送信します。

本製品の信号は「短押し(down)」「短押し(up)」「長押し(down)」「長押し(up)」の4通りで送信手段があります。
ここでは記入例をご紹介します。

short_dw1 = [1][CC][15][127]

Channel No.

CC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.) のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「短押し(down)」すると**チャンネル1+CC#15+Value No.127**が送信可能。

short_up1 = [2][PC][15][-]

Channel No.

PC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.) のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「短押し(up)」すると**チャンネル2+PC#15**が送信可能。

long1 = [3][CC][30][0]

Channel No.

CC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.) のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「長押し(down)」すると**チャンネル3+CC#30+Value No.0**が送信可能。

long_up1 = [4][PC][60][-]

Channel No.

PC No.

Value No.

CC(コントロール No.)、PC(プログラムチェンジ No.)、NT(ノート No.) のいずれかを入力

上記のコード入力の場合、スイッチを「長押し(up)」すると**チャンネル4+PC#60**が送信可能。

1つのスイッチで順番に信号を送信したい場合の記入例

```
keytimes = [3]
```

← keytimes = [x] (切り替え回数)
スイッチを押すたびに切り替わる動作の総数を設定します。

```
ledmode = [normal]
```

```
ledcolor1 = [0x00ffff][0x000000][0x000000]
```

```
ledcolor2 = [0x000000][0x00ffff][0x000000]
```

```
ledcolor3 = [0x000000][0x000000][0x00ffff]
```

```
short_dw1 = [1][CC][10][25]
```

```
short_dw2 = [1][PC][10][-]
```

```
short_dw3 = [1][CC][47][100]
```

上記のコード入力の場合、スイッチを3回「短押し(down)」するとチャンネル1+CC#10+Value No.25、チャンネル1+PC#10、チャンネル1+CC#47+Value No.100、が順番に送信可能。

ledcolorについて

各スイッチに3箇所のLEDライトが点灯します。6桁のカラーコードを入力してカラー変更が可能です。
3色同じ色はもちろん、それぞれのLEDライトもカラー変更が可能です。

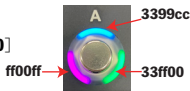
カラーコード入力例1(上側のスイッチ)

```
ledcolor1 = [0xccffff][0xffff66][0xff3300]
```



カラーコード入力例2(下側のスイッチ)

```
ledcolor1 = [0xff00ff][0x3399cc][0x33ff00]
```



1つのスイッチで順番にカラーを変更したい場合の記入例

keytimes = [3]

ledmode = [normal]

ledcolor1 = [0x00ffff][0x00ffff][0x00ffff]

ledcolor2 = [0x33cccc][0x33cccc][0x33cccc]

ledcolor3 = [0xff00ff][0x3399cc][0x33ff00]

short_dw1 = [1][PC][0][-]

short_dw2 = [1][PC][2][-]

short_dw3 = [1][PC][4][-]

スイッチを押す回数「short_dw1, short_dw2, short_dw3」に対応させて、「ledcolor1, ledcolor2, ledcolor3」の色を指定します。

ledcolor1 = [0x00ffff][0x00ffff][0x00ffff]

ledcolor2 = [0x33cccc][0x33cccc][0x33cccc]

ledcolor3 = [0xff00ff][0x3399cc][0x33ff00]



※下記のカラーコードは一例です。お好みの色に変更したい場合は、
Web等で「カラーコード (HEX)」を検索し、好きなコードを入力してください。

	000000		330000		660000		990000		CC0000		FF0000
	003300		333300		663300		993300		CC3300		FF3300
	006600		336600		666600		996600		CC6600		FF6600
	009900		339900		669900		999900		CC9900		FF9900
	00CC00		33CC00		66CC00		99CC00		CCCC00		FFCC00
	00FF00		33FF00		66FF00		99FF00		CCFF00		FFFF00
	000033		330033		660033		990033		CC0033		FF0033
	003333		333333		663333		993333		CC3333		FF3333
	006633		336633		666633		996633		CC6633		FF6633
	009933		339933		669933		999933		CC9933		FF9933
	00CC33		33CC33		66CC33		99CC33		CCCC33		FFCC33
	00FF33		33FF33		66FF33		99FF33		CCFF33		FFFF33
	000066		330066		660066		990066		CC0066		FF0066
	003366		333366		663366		993366		CC3366		FF3366
	006666		336666		666666		996666		CC6666		FF6666
	009966		339966		669966		999966		CC9966		FF9966
	00CC66		33CC66		66CC66		99CC66		CCCC66		FFCC66
	00FF66		33FF66		66FF66		99FF66		CCFF66		FFFF66
	000099		330099		660099		990099		CC0099		FF0099
	003399		333399		663399		993399		CC3399		FF3399
	006699		336699		666699		996699		CC6699		FF6699
	009999		339999		669999		999999		CC9999		FF9999
	00CC99		33CC99		66CC99		99CC99		CCCC99		FFCC99
	00FF99		33FF99		66FF99		99FF99		CCFF99		FFFF99
	0000CC		3300CC		6600CC		9900CC		CC00CC		FF00CC

DTMソフトのトラックを再生したい場合のキーコード入力例

`short_dw1 = [-][HID][-][Space]`

↑
キーボードコマンドを送ります、という信号

↑
キーボード「SPACE」を指定

上記のコード入力の場合、「SPACE」キーボードの短押しを指示します。

コマンドキー、コントロールキーを使用しない場合はmacOS, windowsOSどちらもご使用可能です。

DTM、宅録等で使用されるショートカットキーをスイッチで操作することも可能です。

ショートカットキーを設定する場合のキーコードの入力例をご紹介します。

`short_dw1 = [-][HID][Windows][A]`

↑
キーボードコマンドを送ります、という信号

↑
Command キー

↑
キーボード「A」を指定

上記のコード入力の場合、「command」+「A」、**macOS用全体選択ショートカットキー**をスイッチで操作可能です。

MacOS側が「Windowsキーの信号=Commandキー」と自動的に変換して認識するため[Cmd]は非対応です。

`short_dw1 = [-][HID][Ctrl][A]`

↑
短押しを実行

↑
キーボードコマンドを送ります、という信号

↑
コントロールキー

↑
キーボード「A」を指定

上記のコード入力の場合、「Ctrl」+「A」、**WindowsOS用全体選択ショートカットキー**をスイッチで操作可能です。

MacとWindowsで「全選択」に使う基本キーがCommand(=Windowsキーの信号)かControlかで

異なるため、Windowsで全選択をさせたい時は[Ctrl]をご使用ください。

よくある質問

すべてのマルチエフェクター、ギタープロセッサに対応していますか？

いえ、全てではありません。接続する本体側のCC受信が限定されている場合もございます。本体側のMIDI互換に関しましては各メーカーのマニュアルに記載されているのでそちらをご確認、もしくはメーカーにお問い合わせることを推奨します。

すべてのDAWに対応していますか？

いえ、全てではありません。たとえばFender Studio Pro8は外部スイッチャーからCC#を受信すること自体は可能ですが、PLAY、STOP、◀ ◀、など操作はMIDI操作に対応しておりません。反対にABLETON LIVE、LOGIC PROはCC#に柔軟に対応しております。このようにDAWによって仕様が異なるのでDAWのメーカーにお問い合わせください。

macで設定を行ってますが、読み込みの認識が遅かったり、上書き保存の時に時間がかかったり、またフリーズになりそうな状態にもなりますがバグですか？

Mシリーズmacとの互換が完全ではないため、認識や動作が遅い場合がございます。

WindowsOSは比較的ハードウェアとの相性が良いのでWindowsPCでのご使用を推奨します。

DAW操作のショートカットキーのコードを入力しましたがUSB-C接続してドライバーのインストールやアプリ側で何か設定が必要ですか？

いいえ、ショートカットキーとしてご使用する場合は、MIDI信号を送信しないのでDAW側では特に設定する必要はありません、本体のモードをノブで設定してUSB-C接続して頂ければそのままご使用可能です。

設定コード以外にも「#」が付いた英文が表記されていますがこのコードは何ですか？

#がついている行は「コメント(無効化された説明文・書き方の見本)」です。設定を有効にしたい場合は#を消して記述してください。

編集ミスでうまく動作しない上にバックアップデータを紛失してしまいました。

弊社メールアドレス「k-garage@kikutani.co.jp」担当:保木口宛にご連絡頂ければバックアップデータをお送り致します。